



私たちは聴くことを大切にします。

ESの文字を左右対称に合わせることにより  
対等な関係で耳を傾け心のささやきにも寄り添い  
聴くことを表現しています。

NPO 法人えんぱわめんと堺/ES  
NO.44 2024年10月発行

## もくじ

- P2 NPO 法人えんぱわめんと堺 第22回 総会イベント報告
- P3 エンパワメント研究会 vol. 13
- P4~5 【事業報告】オレンジりぼん
- P6~7 【事業報告】CAP プロジェクト
- P8~9 【活動報告】子どもの権利条約関西ネットワーク
- P10 【活動報告】ES ラジオはじまりました
- P11 【研修案内】『性暴力と子どもの人権』 講師 西岡英子さん
- P12 代表理事 北野真由美 ごあいさつ  
事務局よりおしらせ



暑かった9月 事務所の駐車場からの空

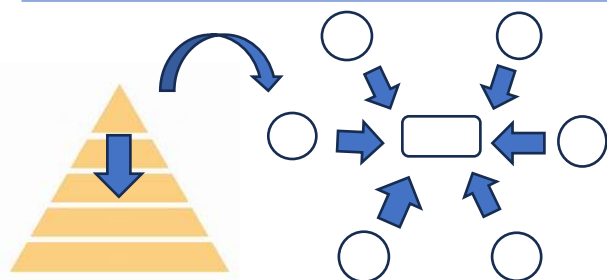
# NPO法人えんぱわめんと堺 第 22 回 総会イベント報告

## 『DX とエンパワメント』

NEC ソリューションイノベータ(株)AI・アナリティクス事業部グループマネージャー  
藤田英利さん「やったことのないコトを楽しんでやってみる」



JANPIA さんと大阪府人権協会さん[1]からのお誘いで参加したプロボノ[2]で、当団体の DX 化[3]・IT 化を目的とし、NEC さんとマッチング成立したのは、2023年の春でした。当初4月の検討会議第1回から15回の会議を経て秋から実運用がスタートし、IT 化最初の一步が実現しました。その後もフォローアップを受け、効率化が驚くほど進みました。コンピューターや電子機器の扱い、活用すると聞くと、人間味があまり感じないイメージが個人的にもありましたが、この1年半の NEC さんとは、全く反対の人と人の関わりが柱となり、効率アップが実現し、そしてさらなるバージョンアップへと継続中、今もフォローをいただいています！総会では、「DX とエンパワメント」をテーマで NEC の藤田英利さんにお越しいただき、DX の再確認と、エンパワメント交流をしました。



プロボノでは、NEC の方々が IT や技術面で知識不足な私たちに対し、聞きやすい環境をつくり、様々な質問にも答え、受け止める姿勢や、実際やってみることを促す関わりは、まさにエンパワメントの関りと感じました。

その根底にあることは、「価値が有限であるという概念」に囚われている限り、自分と他者との間で「価値の奪い合い」に終始してしまい、豊かな社会の実現には向かないという考え方によるものでした。ピラミッド型のトップダウンではなく、参加者全員が組織の決定に参加し意見を出し合う DAO「分散型自立組織」であることの重要さも藤田さんから学びました。私たちの団体の決定機関が、メンバー全員参加の定例会の場であることも共通し、改めてその意味の大切さに確信しました。「自己組織化」により個々が自律のもと力を発揮し団体の大きな構造を生成していく。今回の当団体での DX 化実現は、大いに基盤強化につながったと実感しました。また意見を出し合い行動したとき、失敗も悪くない、そして失敗は、早ければ早いほどいいと。修正すればいい！これは子どもたちにも言える。やったことないコトを楽しんで突破していこう！藤田さんからいただいたメッセージは、まさに ES の活動に通じると実感しました！これからも楽しみです！感謝!!

注釈

[1]2021 年4月から取り組んだ休眠預金等活用制度による人権 NPO 協働助成事業の指定活用団体である JANPIA(一般財団法人日本民間公益活動連携機構)と資金分配団体である一般財団法人大阪府人権協会

[2] プロボノ(pro bono)とは専門家である企業やスペシャリストが知識や技術が無償提供する社会貢献活動のこと

[3] DX とはデジタル変革(Digital Transformation)のこと。D は「デジタル」、スマホで検索し、簡単に言うと「機械(コンピューターや電子機器)で情報を扱う際の表現方法の一つ」とあります。効率化し、価値を向上させる取り組み。X は「トランスフォーメーション」ですが、T ではなく X であるのは、未知や変化を象徴する記号として表現しているとのこと

(ほりちゃん)

## エンパワメント研究会 vol. 13

7年にわたり開催しているエンパワメント研究会。

受講される方は多岐にわたります。

ご自身の職場や地域での活動に活かしたいと参加された人、えんぱわめんと堺のメンバーとして共に活動することになった人、まだまだ学びたいと遠方から参加される人などなど・・・。

エンパワメントとして、人と向き合い、関わることについて学びます。

～ともに学び、エンパワメントになりませんか？～

2024年度 vol. 13 はあと2回の開催です。

★11月23日(土) 9:30~12:00 「対立とエンパワメント」

★2025年1月12日(日) 9:30~12:00 「すべてのルールのちゃぶ台返し」

場所はいずれも堺市産業振興センター会議室 4

\*講座ではえんぱわめんと堺発行のガイドブック「エンパワメントへの道しるべ」(1冊2000円)を活用しています。

### 参加者の感想より一部紹介

参加者からお寄せいただいた感想より「エンパワメントだより」を毎回発行しています



- 子どもは一人の人として、感じ考えている。もしかしたらそれはおとな以上に感覚は豊かなのではないかと。それに気づいていないおとなは、おとなの価値観だけを押し付けて大切な子どもの力をうばっているのではないかと思います。
- バウンダリーをできるだけ早いうちに学び、知ることはとても大切だとわかっていても、機会がない、おとなも学ぶ機会がなかったりする。子ども園などでも子ども同士のバウンダリーの侵害について支援者の相談が多くなってきている。自分の意識も含めて支援者の意識も高めていければと思う。
- この場では当たり前境界線の侵害だよなと同意が得られるような事例も職場や地域では気付かず行われていることが多い。気付かなければ侵害されていてもNOを言えない。境界線も学ぶものであり、育まれるものであることに気付いた。子どもの境界線をおとなが守ることで育てていきたい。
- 実際にファシリテーターをしてみたことがとてもよい体験になった。1分で良いところ・改善点を言う事が、ファシリテーターに対してのコメントであると同時に自分自身のトレーニングになることが分かった。
- 気持ちや考えをこぼにする「説明」と「物語る」ファシリテーターをする上での使い分けをする等、実際に声に出す、時間を考える、ファシリテーターとして身につけたいことはまだまだあると感じました。
- 自分の中にこだわっているものがよりしんどくなっていたのかも気づきました。どうしても個人からぬけだせず、たくさん情報とお話をきいてすごく楽しくてまたぜひ参加したいです。
- 「聴く」という中で感覚をみがく、感覚を大切にすることが大事であると痛感しています。ただそれを表面的に出しすぎると話す人は苦しくなる？話しづらくなる？かもしれないのでその感覚を持ってどう聴いていくか他の人のロールプレイを見ることも学びになりました。
- 子どもの自己決定について選択肢を持たせてもらってなかったら「自分で決める」「責任持つ」とか慣れてないから放り出してしまったり、参加しない・切り捨てるになってしまう。子どもたちが自己決定できるように関わってきたい。

## オレンジりぼん

私がオレンジりぼんの「こころクラブ」に初めて参加させていただいたのは、2022年9月です。大学で所属している人権問題を学ぶサークルの活動の一環として参加させていただいたのがきっかけとなり、それ以来約2年間ボランティアとして関わらせていただいています。

こころクラブでの活動では、一貫して自分自身を大切にすること、それと同様に、相手のことも尊重することが根底にあると感じています。それはまさに、互いに権利を持つ主体であることを確認する、人権教育であると思います。こころクラブの凄さは、自分と相手を大切にすること、人権教育を、実践に落とし込んでいることにあります。スローガンにとどまることなく、具体的な行動へ移すための様々な工夫が実行されているこころクラブの活動に感銘を受けました。

例えば、こころクラブでは利用者の方が自分の意志や感情を表現する機会が多く設けられています。名前の呼び方、好きな食べ物、最近の出来事など、様々なテーマが設定されています。口頭で表現する方もいれば、スタッフさんが準備したイラストを印刷したプリントを用いて表現する方もいらっしゃいます。そこでは、ポジティブな感情だけでなく、ネガティブな感情も肯定的に受け入れられています。

このような利用者の方々による表現は、えんばわめんと堺の合言葉「目、耳、ハートは聴く合図」によって受け止められます。それだけでなく、こころクラブの方々には相手を受け入れる言葉を沢山持っておられます。「わかるー」、「いいね」、「そうなんだ」、「教えてくれてありがとう」など相手を受け入れる様々な言葉が飛び交います。利用者さんも一緒にこのような言葉が書かれたカードを用い、相手の発表に反応します。さらに、スタッフの方々も、本人の捉え方を大切にしています。利用者さんが最近の出来事を話してくれた時、「どう思った？」と本人の感想を尋ねておられます。一見「楽しかった」という感想を抱くと予想される出来事を話してくれたときも、本人は違った感想を抱いていることがあります。こころクラブでは本人の感情を周囲が規定せず、本人がどう思ったかを大切にすることが自然に実践されています。

このような取り組みは、障がい者の自己決定の権利の尊重につながる、重要な取り組みであると感じています。意思表示をする機会が乏しい状況に置かれる障がいのある方も少なくありません。自分で意思表示をし、決定していくという機会が少ないために、自己決定をすることが困難な方もいらっしゃるのが現状です。意思表示をする機会を提供するこころクラブでの活動は、意思表示をする方法、嫌なことや拒否も表現してよいこと、一人ひとり違う感情を持っていることを伝えることを通じ、自己決定の権利を実現することにつながっていると感じています。

自分の気持ちを表現すること、そして聴くことは、すなわち自分と相手を尊重することにつながっています。このことは、こころクラブにおけるすべての活動のベースになっていると感じます。こころクラブでは、自分の物も相手の物も大切にするためのワークショップや、身体のことを学び身体を大切にするためのワークショップが行われています。ここでも、自分と相手の感情、物、身体を大切に、それぞれが可能なかたちで意思を表現することを一緒に考えています。

人権問題を学ぶ学生として、権利の尊重が具体的なかたちで実現されている場を体験させていただくことで、権利の尊重は実践できることであることを改めて実感しました。具体的な言動のレベルにおいても権利が尊重される社会のために、このような実践の場での学びを大切にしてい

きたいと思います。そしてこれからも、こころクラブから様々なことを吸収させていただき、微力ながら障がいをもつ方々の権利、子どもたちの権利が尊重される社会のために活動していきたいと思っています。そう思わせてくれる場に身を置かせていただけていることに感謝しています。これからもどうぞよろしくお願いいたします。（近藤佳奈）

### こころクラブの仲間だった頼子さんを偲んで

頼子さんが32歳という若さで旅立たれたこと、あまりにも早すぎて、まだ信じられない気持ちです。小学生の頃からオレンジりぼんの集まりで顔を合わせて、約20年、彼女の成長を見せてもらったんだなあ、と思うと、思い出と共に涙が溢れます。

頼子さんがオレンジりぼんで話してくれたこと、笑顔、そのすべてが今でも心に残っています。趣味も本当に多かったですね。さをり織りに夢中になりすぎて体調を崩した、なんて話を聞いた時は、「ああ、頼子さんらしいなあ」と思わず笑ってしまいました。展覧会で彼女のさをりの作品を見て感動したこと、ジャニーズや映画の話で盛り上がったこと、そして一緒にCDを聴いた時間——どれも大切な思い出です。

そして、いやな時ははっきり「いや」と言える人で、高校を卒業したころでしょうか、「よりちゃん」と呼んでいた私たちに「頼子さん」と呼んでと伝えてきました。しっかり意思を示せる人に成長していましたね。

私の息子と同じ主治医だったこともあり、待合室で一緒に過ごした時間もよく覚えています。赤ちゃんだった息子に乳ボー口を食べさせてくれた優しい姿、そして何か真剣に話し諭していた頼子さん、その姿が今でも鮮やかに思い浮かびます。同じ病を抱えながら元気に過ごしている姿は希望で、本当に温かい人でした。

頼子さんが全力で生きた姿は、私たちの心にずっと残っていて、沢山の思い出に感謝です。

頼子さん、本当にありがとう。そして心から、ご冥福をお祈りします。（はしもと）

### 頼ちゃんにたくさんのありがとうを伝えたい



折り紙しながらいっぱい話してくれたね  
いつも“好き”って言ってくれて嬉しかったよ！  
力強いメッセージにパワーいっぱいもらったよ！  
素敵なさをり織り 大事にするよ～



頼ちゃんの最後の習字を紹介します。  
文字にこめられた想いにグッとくる！！

By ありちゃん

## CAPプロジェクト

今年度は6月からCAPプログラムが始動しました。この記事を読んでいる頃には、堺市内半数の小学校にCAPプログラムを届け終わっている予定です。

今年は昨年から2点、嬉しい変化がありました。マスクの着用が自由になったことです。そのことで、子どもたちひとりひとりの表情がよく見えること、ちょっとした呟きの小さな声がよく聞こえるようになりました。コロナ前の本来の姿に戻り、コミュニケーションを取りやすく感じ、子どもたちにとっても、伝わりやすくなっていると思います。

もう1つは、中学校へCAPプログラムを届ける数が増えました。小学校へのプログラムは2校時を使って行いますが、中学校は2校時を2日間必要です。

授業や行事を調整し時間確保が難しいとの声がある状況の中、今回中学校からの依頼が増えたのは嬉しいことです。

その分日程に合わせたメンバーの確保が困難な時もありますが、繋がりのあるグループのCAPスペシャリストの方々にも協力いただき、毎年のことですが総動員でフル活動中です。そして、一貫してずっと変わらないことは、CAPプログラムの「安心・自信・自由」の理念です。

プログラムの内容や問いかけは同じであっても、毎回子どもたちからの意見や反応が異なることで、そのやり取りから話が広がり深まります。ワークショップの醍醐味ではありますが、ファシリテーターとしてまだまだ駆け出しの私は、子どもたちからのおもわぬ言葉にドキッとすることも多々。

その子の背景やこれまで背負ってきたものに思いを巡らせ、心のアンテナを張りつつ、一緒に入っているメンバーと共にワークショップを進めていきます。

メンバー同士でのエンパワメントの心地よい関わりが、子どもたちや周りのおとなたちにも広がるように、それをいつも示すことができるおとなのひとりでありたいと思っています。

そして、昨年からこども基本法が動き出し「子どもの権利」が注目されやすい今、更にひとりひとりが大切な存在だと、出会えた子どもたちの心に届くように伝え続けていきます。

(さこちゃん)

子どもたちがメッセージを書いてくれました



### CAP スペシャリスト養成講座 就学前プログラム講座を受講して

「幼児期の子どもはおとなとは違っているけれど、劣ってはいない」このことを理解し確信を持つことを目標の一つに、3日間ある就学前プログラム講座が始まった。連日猛暑日の7月末、初日はオンライン講座。「助かった～」とエアコンの効く中で快適に、CAPの歴史や理念、子どもたちを取り巻く環境、こども基本法に関する事、アタッチメントや発達理論、子どもが受けやすい暴力についてと盛りだくさんの座学を受けた。

2・3日目は、大阪府社会福祉会館の会場に参加者さんが集まる。最寄り駅から徒歩5分が暑く、

汗が引くのもほどほどに、愛知県や福岡県など他県からの参加者さんや私を含めたESメンバー3人の約20名で対面講座が始まった。

会場のテーブルは4つのグループに分けられており、何やら奇妙な道具が各席に置いてある。軍手・シール・汚れたサングラス・ビーズ・紐・鏡・クレヨン、緊張がワクワクに変わる気持ちで同じグループの人と挨拶を交わし席に着いた。開始早々、幼児の発達についての体験と言うことで「今から言うことをして下さい。どんな感覚をもったか、気持ちはどうだったかをみていきましょう。」と説明もそこそこに、用意されたものを使ってシール貼り・色塗り・紐通し・一筆書きを行う。他にも「子どもだけに見える世界・模擬体験メガネ」のチャイルドビジョンを使って子どもの視野を体験してみた。次々に体験していくと、心と自然に幼少期の自分が蘇った。朝、こたつに入り、コップに入った牛乳を飲もうとコップを口に当てた瞬間、自分の洋服とこたつ布団と絨毯が冷たく白くなり、その様子に気付いた母が慌ててそばに駆け寄り牛乳を拭く姿を見て、私は1人「あれ？ぜんぜん飲めなかった！」と戸惑ったこと。道を歩いている「なんで、おとなはウンチもミミズの死骸も踏まずにスタスタ歩けるの？」と不思議に思ったこと、と同時に幼児期だった娘たちに接してきた親の自分も浮かんでくる。体験とは名ばかりの強烈な問いをかけられた感覚になり、冒頭から大真面目な体験プログラムになった。

日頃から聴いてくれるおとながいる環境は、いざと言う時の自己防衛力を高めることに繋がるということを知り、子どもたちの日常生活にいる地域のおとなに働きかける「おとなワークショップ」が幼児期において、いかに大切かの知識を得た。また地域のおとなの「暴力防止教育」に対する抵抗感や思い込みに対する理解も深めることができた。教職員や保護者といった立場や役割の違いによるワークショップの違いについても知ることができた。

その後、お昼ご飯や休憩を挟み実践編へと移っていった。実践編を通して、就学前プログラムの流れを子どもの目線で体験し、ワークショップに出てくる人形劇などもセリフや動きを他の参加者さんと合わせてみた。就学前プログラムにおけるトークタイムについてもグループに分かれて練習を行った。その中でお互いに気づいた点を出し合い、見よう見まねで取り組んでみた。

3日間を通して印象に残ることがいくつかあった。トレーナーさん同士の中でお互いの意見を出し合う場面があり、対等な関係であることを感じた。他には参加者さんの質問にトレーナーさんが「う～ん、めざといな～」と返答に悩む場面があり、たった今、学び直したスペシャリストとして心がける一つにあった「ごまかさない」を体現していると感じた。

このことを取り立てる自分と向き合いながらではあるが、人権の大切さを学ぶ仲間との関係は、自分がより大切にされている感覚になることが多く、全ての子どもがその人なりにこの気持ちでいて欲しいと改めて思った。講座の中で得た知識やスキルと共に、この感覚は、私が今後活動していく上で大きな支えとなっている。

(piccolo)



## 子どもの権利条約関西ネットワーク

日本が「子どもの権利条約」に批准してから30年が経ちました。しかし子どもの権利が十分に社会に周知されているとは言い難い現状があります。特に、当事者である子どもたち自身にも、またその権利を守る立場にあるおとなにおいても、「子どもの権利条約」を知っている人は少数派で学校現場でも十分に浸透していないと感じることが多々あります。

当団体は、「子どもの権利条約関西ネットワーク」の構成団体として活動し、8年目を迎えています。私たちは、子どもたちと共に子どもの権利が守られる社会の実現をめざし、さまざまな活動に取り組んでいます。また、昨年、「こども基本法」が施行され、「こども家庭庁」が発足しました。これにより、国が掲げる「だれ一人取り残さない“こどもまんなか社会”」の理想図が示されました。この理念を実現するためには、子どもに関わるあらゆる場面で、子どもの意見をしっかりと聴くことが求められます。

しかし、実際の現場で課題を話し合う中では「子どもの権利が尊重されない環境で、学びや、しつけが行われている」「子どもたちが意見を聴いてもらう機会や環境が少なく、意見を持ち伝える力が育たない」「おとなも子どもの意見を聴くという姿勢が足りていない」などの声が上がっています。

では、どのようにして、“こどもまんなか社会”を実現するのでしょうか。私たちネットワークが開催する「子ども会議」で、おとなが心がけているのは、子どもたちが単なる「お飾り」のような参加ではなく、主体的かつ実質的な参加にどれだけ近づけることができるかです。子どもたちが自分の学校や家庭、社会問題について自由に意見を述べ、フィードバックが得られる場を提供すること。さらに、子どもたちが平等や人権を実感できるよう、社会全体で多様性を尊重し、子どもたちを支える環境づくりを進めていくことが必要だと考えています。



ここで、実際にネットワークの子ども会議に参加している人からの声をご紹介します。



Aさん「子ども会議に参加し、全国フォーラムで様々な地域に行く機会がありました。そこで、地域の人々と話すことで新しいことを学べて楽しかったです。方言が違うことも面白かったです。子ども会議に参加するようになってからは、今まで我慢していたことや校則について、自分の意見を言っても良いことを知り、実際に中学校で校則を変えることができました。」

Bさん「私は小学生の頃、あまり話したり笑ったりすることが少なかったのですが、子ども会議に参加し、子どもの権利条約を知ることで、たくさん話すようになり、毎日が楽しくなりました。また、中学校でネットワークのおとなと一緒に『なんでやねん！すごろく』を行った際、友だちから『楽しかった、もっと知りたいと思った』という感想をもらいました。」



Cさん「子ども会議には小学生から高校生までのメンバーがいて、みんなと話すのがとても楽しいです。年上のメンバーが司会や団体紹介をしているのを見て、私にもできると思い、実際に舞台上で自分の考えを伝えることができました。」

Dさん「子どもの権利条約を知ってからは、親やほかのおとなにも『子どもにも権利があるんだよ』と伝えました。それ以来、理不尽なことが減り、この活動をして本当に良かったと思います。」

子どもたちの声を聴き、彼らの権利を尊重することが、真に「こどもまんなか社会」を実現するための第一歩です。私たちは、これからも子どもたちと共に、この目標に向かって歩んでいきます。

11月9・10日に「子どもの権利条約全国フォーラム 2024 in 東京」が行われます。私たち子ども会議のメンバーも、【子どもの権利 なんでもやねん！すごろく】を持ち込み、分科会を担当します。ぜひ、ご注目ください。



2024年は、国際連盟による「子どもの権利宣言（ジュネーブ宣言）」採択から100年、国際連合による子どもの権利条約採択から35年、そして条約の日本批准から30年という記念の年です。

えんぱわめんと堺の拠点である堺市でも、子どもたちが“こどもまんなか社会”を実感し、幸せに生きられるようにしてほしいと思います。国からの号令だけでは難しいため、堺市でも「子ども条例」を制定し、子どもの声をしっかりと聴くシステム作りを進めてほしいです。条例を通じて、子どもたちの声をもっと街づくりに反映される具体的な取り組みを実現していきたいと考えています。  
(あーみん)

今後企画中～

【研修案内】

『こども基本法で堺が変わる～堺市に子ども条例を～パート2』  
(仮題)

日時：2025年2月2日（日） 13:00～16:00

場所：堺市産業振興センター 会議室3

参加費：1,000円（オンライン・対面あり） \*えんぱわめんと堺の会員は無料

講師：藤田 晃士さん（こども家庭庁長官官房参事官 総合政策担当付企画調整係）

岡島 克樹さん（大阪大谷大学人間社会学科・富田林市こどもまんなか施策  
アドバイザー）

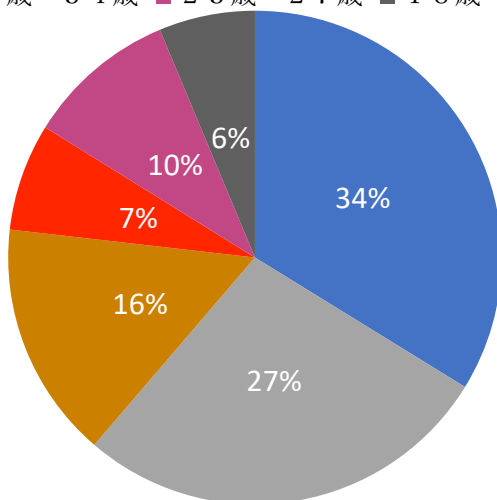
\*\*\*and more\*\*\*

## ESラジオ はじまりました

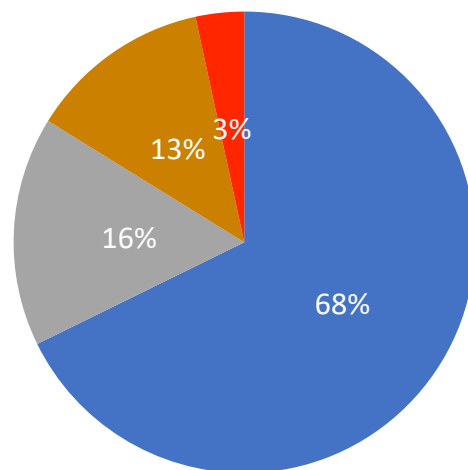
2024年6月から始まりましたESラジオ、おかげさまで11月9日（土）に6回目の配信を迎えます。たくさんの方々にご視聴いただきありがとうございます。ESラジオとは、「聴いていて安心するラジオ」を目指して、NPO法人えんぱわめん堺が配信するインターネット配信ラジオです。これまで、えんぱわめんと堺の理念や取り組み、そしてさまざまなエピソードを交えた「なんでこの活動やってるのか」や「活動を通じて大事にしたいこと」をお話してきました。出演者はNPO法人えんぱわめんと堺のメンバーが代わる代わるでお話をしています。時には、ゲストの出演もあり、日頃、団体がお世話になっているみなさまのお声をいただきながら、今後より一層たくさんの想いが詰まった内容豊かなラジオへと発展していきます。ESラジオはまだまだ駆け出しの途中です。これまで、幅広い世代の方々にESラジオをご視聴いただけており、今後もESラジオが多様な方々に聴いていただけるよう番組のテーマや分量などなど、みなさまに引き続き聴いていただけるように、いただいたご意見を取り入れながら配信していきたいと思っています。これまでに、877名のリスナーの皆さまに聴いていただいています。ありがとうございます。

■ 60歳以上 ■ 45歳～59歳 ■ 35歳～44歳  
 ■ 28歳～34歳 ■ 23歳～27歳 ■ 18歳～22歳

■ 女性 ■ 男性 ■ 指定なし ■ ノンバイナリー



グラフ1 ラジオ視聴者「年齢別」



グラフ2 ラジオ視聴者「性別」

ラジオ番組「ESラジオ」へのアクセス方法（検索ワード）をご案内します。

- ①インターネット環境（Wi-Fi環境）でスマートフォンまたはコンピューターなどの電子機器からインターネットへ接続します
- ②「Spotify」と検索します
- ③登録の案内に従い、🔍何を聴きたいですか?と記載の欄に「ESラジオ」と入力し、お好きな番組を選んで視聴します。

今後、視聴者の方々へもっとお気軽にお楽しみいただけるように工夫していきます。是非ともESラジオ番組の配信をお楽しみください。番組は生放送ではありません。聞き逃しても大丈夫。検索すればいつでも再生可能です。出かける準備をしながら、移動中にイヤホンで、ゆっくり自宅でお茶を飲みながら、仕事のBGM代わりに、寝る前の静かな時間になどなど自由にご視聴くださいませ。

ESラジオでした。 ♪ホーホケキョ♪  
 (あいのっち)

## 【研修案内】

その1

### 『性暴力と子どもの人権』 2024年度堺市男女共同参画推進講師派遣事業

日時：11月2日（土）13：30～16：00

場所：堺市産業振興センター セミナー室1

参加費：無料



講師 西岡英子さん

大阪大学 ダイバーシティ&インクルージョンセンター 副センター長 教授

えんばわめんと堺でも、性のプログラムを教育現場やおとなに届けていますが、子どもがネットで知り合った人とつながり性暴力にあう、子どもが簡単なバイト先で性暴力にあう…子どもの性暴力被害が後を絶たないと聞きます。包括的な性教育の理解も含めて、性暴力に関する法律や国内外の性被害者支援の動向について学びます。

お申し込みは、上記のQRコード、もしくはえんばわめんと堺までご連絡ください。



072-230-5588



empowerment@lily.ocn.ne.jp



### ローズカーニバルのご報告

5月19日に堺市の浜寺公園で開催されたローズカーニバルは土砂降りの寒い空の下でしたが、メンバーで声を張り上げながら売りました！

売上金は19,091円でした。

この売上金は、主に障がい児者へのワークショップ費用に活用させていただきます。

テントを持っていないわたしたちのブースを見かねて、声をかけてくださる人、少しでも雨を凌げるようにと助けてくださった人がいて、気持ちが温くなりました。たくさんのおもちゃや商品を提供してくださった方、購入してくださった方、遊びに来てくださった方、ありがとうございました♪





NPO法人えんぱわめんと堺はおかげさまで第22回の総会を迎えました。子どもの権利や暴力防止の活動を初めて20周年を迎えその土台をベースに、次のあらたな視点で動き出した2年目は、時代に沿っての変化と期待、またこれまで培ってきたエンパワメントの概念を広げる方向へと展開しています。

今年は、子どもの権利条約が日本で批准されて30年になります。社会では、なかなか浸透するまでに時間がかかる子どもの権利への理解ですが、22年前とは、少しずつですが、変化しています。その培ってきた土台は、間違いなくこれからも積み上げていく大事なことだと思います。

子どもの権利が尊重される社会をめざし、子どもたち誰一人取り残さない、みな安心な気持ちで、自信を持って自由に生きていく社会づくりを続けたいと思います。

最後になりましたが、皆さまのご協力ご理解に感謝し、ごあいさつに代えたいと思います。

代表理事 北野真由美

### 会員募集～入会手続き～

正会員 5,000円  
(初年度のみ入会金 3,000円)

賛助会員 1,000円 (入会金なし)

更新日は年2回 (1月31日・8月31日) です。

- ◎ 会員有効期間は1年です。
- ◎ 郵便振替～通信欄に必要事項をご記入ください。

加入者名 特定非営利活動法人えんぱわめんと堺  
口座番号 00920-9-182116



正会員 29名  
賛助会員 59名 (79口)  
寄附金 22,006円

(2024年4月～2024年9月)

2024年9月末現在

ESの活動はみなさまからの寄付、ご支援にささえられております。今後ともよろしくお願いたします。

ホームページや Facebook も見てね

### 特定非営利活動法人えんぱわめんと堺 / ES

〒599-8244 堺市中区上之801番5号

TEL : 072-230-5588 FAX:072-230-5589

E-mail : [empowerment@lily.ocn.ne.jp](mailto:empowerment@lily.ocn.ne.jp) <https://www.npo-es.org/>



### 編集後記

里子が18歳の誕生日を迎えた。里親生活で祝う最後の誕生日。まだまだ時間が足りないと感じる。3月の卒業に向けて、今できることはただ、ただ「1人じゃないねんで」と植えつきたい。家を出て困難なことがあった時、思い出してほしい。あきらめたり、消す方法じゃなく、消さなくてあきらめなくて良い1人なんだと刷り込みたい。ここ最近そんなことばかり考えている。(same)

